

A 互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる。

ア 問題の概要と結果

① 話し合いの内容から共通点をまとめる。

① (3) 正答率 **28.8 %** (問題番号3)

＜ねらい＞ 目的や進め方を確認し、共通点をまとめる。

司会者として、発表の内容を決定するために、アンケートの結果から気付いたことについて出された意見の共通点をまとめる。

学習指導要領における内容

[第3学年及び第4学年]

A話すこと・聞くこと (1) オ
目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

イ 問題の分析と考察

視点の異なる二者の発言について、単純に発言の共通点や相違点だけに着目して回答したため、誤答となる傾向が多く見られました。これは、ここで話し合いの目的＜発表する内容を決めること＞と、司会の役割＜目的に向けて考えがまとまるように進行すること＞に意識が向かなかったことが要因と考えられます。

「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実現を目指し、子どもたちが授業の中で話し合いを行う場面が多く見られるようになっています。話し合って考えをまとめるためには、目的や目指す到達点、そこに向かう話し合いの進め方を確認し、話し合う目的や必要性を意識しながら進めることができます。そのためには、話し合いがまとまるように進行していくのが司会の役割です。

日頃の授業においては、「何のために、何をめざして、何について」話し合うのかを意識し、課題に沿って発言しているか、その発言は話し合いの流れを踏まえているかなどを適時判断しながら取り組むことで、目的に向かう話し合いをとおして、子どもたち一人ひとりの思考が深まるものと考えます。

B 場面の展開を捉えて読む。

ア 問題の概要と結果

③ 物語を読んで考えたことについて、感想を話し合う。

③ (2) 正答率 **56.1 %** (問題番号 13)

＜ねらい＞ 場面の展開を捉えて読む。

登場人物の行動を表す言葉や場面の様子を表す叙述を基に、場面が移り変わったところを見付けて選択する。

学習指導要領における内容

[第3学年及び第4学年]

C読むこと (1) イ
登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

イ 問題の分析と考察

登場人物の行動や場面の様子を基に、場面が移り変わったところを選択する問題です。正答率は 56.1 % であり、半数以上の児童が正答することができているものの、登場人物の行動について叙述を基に捉えることに課題が見られます。文学的な文章において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える「構造と内容の把握」は、文章を精査・解釈することや自分の考えを形成することにつながる大切な資質・能力です。

誤答を分析すると、「(つり) さおをいっぱいに立てた」の叙述の後に「魚があみに入っている」と捉えている例が多く見られました。その後をさらに読むと、「たもあみを水面につき出した」「たもあみの中で、魚がバタバタ大暴れした。」とあり、この二つの叙述の間に魚があみに入ったことがわかります。一つの叙述から登場人物の行動や気持ちを判断するのではなく、複数の叙述を基に登場人物の行動や気持ちを捉える資質・能力を着実に育成する必要があります。

授業実践アイディア例

A 互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる。

教材名：クラスのみんなで決めるには（光村図書4年下）

育成を目指す資質・能力

第3・4学年〔思考力・判断力・表現力等〕A 話すこと・聞くこと(1)オ
目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見
の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

そのために

ポイント① 「目的」と「決めること」を明確にしましょう



今日話し合う議題は、地域の学習でお世話なった地域の方に感謝の気持ちを伝える（目的・必要感）ために、お礼の会で何をするか（話し合いの到達点）を決めよう！

話し合いの中で出された互いの考え方や意見の共通点や相違点に着目し、考えをまとめることに結びつけることが重要です。

「話し合うこと」自体を目的とせず、子どもたちが話し合いを行う目的や必要性を意識しながら、めざす到達点に向かって話し合いが展開されるよう、「目的」や「決めること」を明確に位置付け、全体で共通理解を図ることが大切です

メリット① ゴールを意識した話し合いになる

ポイント② 司会などの役割を果たしながら、進行しましょう



【司会】「5つの案が出されました。次に、この中からどうやって決めるかを考えます。」

【提案者】Aさん「感謝はすぐ伝えたいので、準備に時間のかからないものがいいと思います。」

Bさん「僕たちの心がこもっているものを選ぶといいと思います。」

【司会】「他の人はどうですか？…では、準備に時間がかかるず、心がこもっているものを話し合って決めましょう。」

話し合いがまとまるように進行すること

レベル1 進行表に沿って進行そのものを学ぶ

レベル2 目的に応じて発言を促したり、共通点や相違点を確認しながら、内容をまとめたりできる。

→ 司会者のレベルアップを目指して、役割を交代しながら経験を積み重ねていく。

メリット② 1人ひとりの達成感が次の話し合いへの意欲となる

ポイント③ 思考を可視化し、整理しましょう

★関連：[知識及び技能](2)イ
※比較や分類の仕方



【記録係】

今日の議題はお礼の会で何をするかを決めるから…。」

話し合いの到達点

- ・結論を一つにまとめるに重点を置くもの
- ・参加者の考えを明確にしたり、広げたりすることに重点を置くものなど

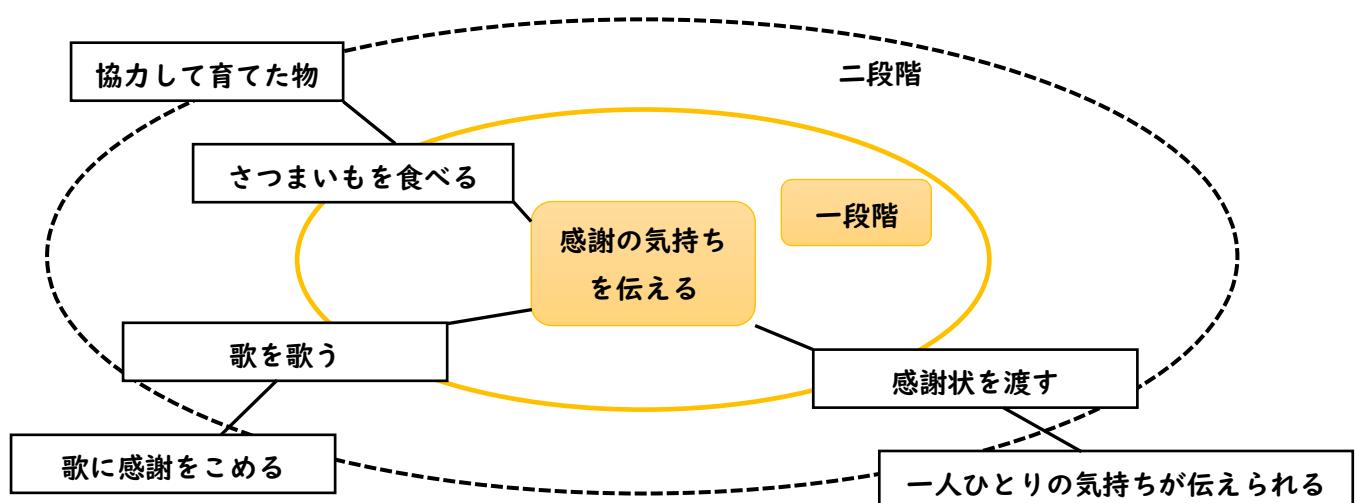
話し合いの目的に合わせて、図や表を活用することで、目には見えない思考を可視化し、それぞれの意見の共通点や相違点を浮き彫りにし、思考の深まりを促す。

くらべる（物事や考えの特徴を表にまとめる）

	時間がかかるない	心がこもっているか
感謝状をわたす	○	感謝の気持ちを一言書く
プレゼントを渡す	△	一人一人が作る



広げる（思いついた事柄をつなぎで考えを広げていく）



ICT を活用して思考を可視化し、それぞれの考え方を共有しながら共通点・相違点を明らかにすることも有効な手立てです！

メリット③ 共通点、相違点が明確になり、思考が深まる

★[知識及び技能]と関連付けながら資質・能力を育成

授業実践アイディア例

B 場面の展開を捉えて読む。

教材名：三年とうげ（光村図書3年下）・一つの花（光村図書4年下）

育成を目指す資質・能力 第3・4学年[思考力・判断力・表現力等] C読むこと(1)イ
登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

そのために

ポイント① 複数の叙述を根拠として、登場人物の行動や気持ちを考えましょう。

登場人物の行動や気持ちを考える際には、一つの叙述だけを根拠とするのではなく、複数の叙述を基に捉えることが大切です。

行動や会話など、異なる叙述を組み合わせることで登場人物の行動の背景や行動に至るまでの気持ちをより正確に捉えることができます。



T: おじいさんは、三年とうげで転んでしまった時、どんな気持ちだったでしょう。



C: 大変なことになってしまった、という気持ちだと思うよ。

C: 助けてほしいという気持ちだったんじゃないかな。

C: 本当に困ったという気持ちもあったと思うよ。



T: どの言葉から分かりましたか。

C: 「真っ青になりがたがたふるえた」「おばあさんにしがみつき」とあるから怖かったと考えました。

〈学びの系統性を意識して〉
第1・2学年での「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える」指導を受けて、場面の様子、登場人物の行動や会話を表す言葉などに着目して指導を行います。
また、登場人物の行動や気持ちを捉えるためには、「設定（いつ・どこで・だれが・どんな状況など）」についてもしっかり確認しておくことが重要です。



T: おじいさんの行動や会話から、気持ちを考えることができましたね。おじいさんの行動や会話を表す言葉を2つ以上選んで、おじいさんの行動でおもしろいと思ったことを書きましょう。

メリット① 複数の叙述を根拠にすると、物語全体の構造や内容をより正確に捉えられるようになります。

- [構造と内容の把握]に関わること
- 設定（いつ・どこで・だれが・状況）
 - 組み立て（出来事の順序と結末）
 - 登場人物の行動や気持ち
 - 言葉（繰り返しや調子のよさ）

これらの視点で、他の民話と比較しながら、とっておきの民話を紹介する【考えの形成】へつなげていく。

ポイント②

どの叙述から考えたのか、児童が視覚的に捉えられる工夫をしましょう。

考え方の根拠として取り上げた叙述に丸をつけることや、黒板に位置付けたりすることで、どの言葉に着目したのかが視覚的にわかる工夫をしましよう。そのような指導を積み重ねていくことで、児童は、言葉に着目して自分の考えを表現することができるようになります。ICTの活用も効果的です。

〈児童の反応例〉 石につまずいて転んだ時、おじいさんが、おばあさんにしがみついたり、おいおい泣いたりして、おもしろいと思いました。おじいさんほどの大人が、しがみついたり、おいおい泣いたりしていたので、よっぽど助けてほしいという気持ちだったのだと思います。最後には、…（省略）

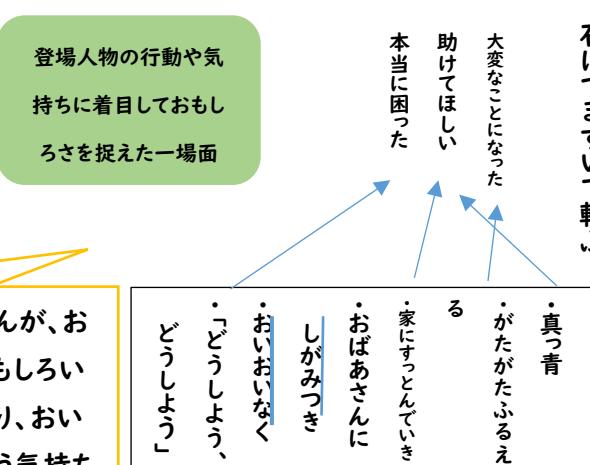
メリット②

「どの児童も」「言葉をもとに」考える学習を確実に積み重ねることができます。

ポイント③ 重点指導事項が「精査・解釈」や「考えの形成」の単元においても、「構造と内容の把握」の指導は大切です。

『一つの花』(4年下) 重点指導事項C読むこと(1)工

時間	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none">・設定をもとに、場面に分ける。・初発の感想（心に残った場面、みんなで考えたいこと）を書く。
2	<ul style="list-style-type: none">・問い合わせをもとに、学習計画を立てる。
3	<ul style="list-style-type: none">・登場人物の行動や気持ちについて、叙述
4	<p>をもとに捉える。</p> 
5	<ul style="list-style-type: none">・場面と場面を比べ、<u>お父さんが「一つだけ」に込めた思い</u>を考える。
6	<ul style="list-style-type: none">・心に残ったことについてまとめ、グループで伝え合う。
7	<ul style="list-style-type: none">・单元で学んだことを振り返る。



学習過程として、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」が学習指導要領に示されています。「精査・解釈」や「考えの形成」が重点指導事項となっている単元においても、物語の設定や組み立て、登場人物の行動や気持ちの捉えなしには、「精査・解釈」や「考えの形成」の十分な深まりが見られません。軽重をつけつつ、次の学習過程へつなげる意識で指導を行いましょう。(子どもたちの学習の状況によって、学習過程は行きつ戻りつするものです。)

メリット③ 「構造と内容の把握」をしっかりと捉えることで、「精査・解釈」や「考えの形成」の学びが深まります。